

文化財の英語解説の在り方 英語版オーディオガイド 作成の留意点について

文化庁「文化財の英語解説の在り方に関する有識者会議（第3回）
2016年2月22日

リンネ マリサ
Melissa M. RINNE
京都国立博物館 国際交流担当

理想的なオーディオガイドとは？

- ・ 適切な情報量（多すぎず、複雑すぎず）
- ・ 文化財をより深く見る、考えるようにする
- ・ 講義よりも物語・ストーリー性
- ・ 書き言葉よりも会話型言葉
- ・ 中学生でも理解できる言葉（難しい単語について説明あり）
- ・ 知りたい基本的な質問を答える（これは何？どうやって使われた？）

日本語オーディオガイドを 英訳する難点・落とし穴（１）

問題

日本人向けの情報は、外国人向けの情報とは必ずしも同じでなくてもよい。

例

建盞は中国で作られた、いわゆる唐物天目です。

Kensan is a Japanese term for *tenmoku* wares made in China.

解決方法

- ・ 外国人向けの内容は日本人向けの内容と異なっても良い
 - ・ 翻訳せず、最初から英語ネイティブな専門家に英語で書いてもらう
- あるいは、
- ・ 信用できる翻訳者に編集するにあたって広い裁量権を与える

解決例

建盞は中国で作られた、いわゆる唐物天目です。

This Chinese tea bowl was used in Japan for drinking *matcha*, or whipped powdered green tea. Such Song-dynasty brown and black glazed ceramic bowls are known in Japan by the Japanese term *tenmoku*.

（「建盞」という専門用語を敢えて翻訳しない。その代り、英語開設に基本情報を増やす。）



日本語オーディオガイドを 英訳する難点・落とし穴（2）

問題

日本語のあいまい表現（たとえば、単数か複数）が英語ではっきりされる。文化財は目の前にあるため、オーディオガイドでのミスは図録でのミスよりも目立つ！

例

胴に野菊の文様を鉄砂で描いた壺です。

The body of this jar is decorated with an underglaze iron design of **wild chrysanthemums**.

解決方法

翻訳を依頼する時に、十分な写真資料を与えなければならない。
翻訳者に日本語のテキストだけを与えても間違った翻訳はやむを得ない。

解決例

胴に野菊の文様を鉄砂で描いた壺です。

The body of this jar is decorated
with an underglaze iron design of
a wild chrysanthemum.

（単数と複数は間違っていた）



日本語オーディオガイドを 英訳する難点・落とし穴（3）

問題

英語には振り仮名がないので、発音ミスはしやすい。特に海外で収録される場合は直接の担当者が収録に立ち会っていない可能性がある。

例（日本の博物館・美術館の英語オーディオガイドの実際例）

Śākyamuni（釈迦如来）	サキヤムニではなく、シャキヤムニ
Vairocana（大日如来）	ヴェロケアナではなく、ヴァイロチャナ
Qing dynasty（清時代）	クイニングではなく、チン
Heian period（平安時代）	ヒーイエアンではなく、ヘイアン
Silla（新羅）	セィラではなく、シラ
Lacquer（漆）	ラクールではなく、ラッカー
Ramie（苧麻）	ラミエではなく、レイミまたはラミ
Triad（三尊）	トリーアドではなく、トライアド

日本語オーディオガイドを 英訳する難点・落とし穴（４、５）

問題

日本的な考え方を現した表現が不明のため、英語表現が複雑になり、支離滅裂になる

例

現代に伝わる子どもの衣裳は、お宮参りの祝着など、すべて子どもの成長儀礼に伴うものです。

Today, traditional Japanese costumes for babies or little children are all designed as celebratory attire for ritual visits to Shinto shrine, all of which involve prayers for their health and happiness.

問題

日本語の文化財解説に受動態（「と考えられている」）が多いが、英語では受動態より能動態（“Scholars think that …”）は好まれる。特に話す英語に受動態が不自然に聞こえる。

日本語オーディオガイドを 英訳する難点・落とし穴（6）

問題

よい英語オーディオガイドを制作するには、より多くの工程が必要となる。

日本語

1. 日本人の担当者が解説を提供する
2. 日本人のオーディオガイド著者がそれを日本人向けに面白く書き直す(ルビをすべて入れる)
3. 日本語オーディオガイド原稿が担当者によってチェックされる
4. 声優・ナレータによって収録する(日本のスタジオにて)
5. 担当者がチェックする
6. 納品

英語(翻訳の場合)

1. 日本人の担当者が解説を提供する
2. 日本人のオーディオガイド著者が日本人向けに面白く書き直す(ルビをすべて入れる)
3. 日本語オーディオガイド原稿が担当者によってチェックされる
4. 翻訳者が翻訳する
5. 英語ネイティブ編集者が英語的に編集する
6. オーディオガイド会社がチェックする
7. 英語・日本語・中国語・韓国語・などを正しく発音できる声優・ナレータによって録音される(海外のスタジオにて)
8. 英語ネイティブがチェックする
9. 発音の間違ひがある場合は、再収録する
10. 納品

有料の英語オーディオガイドの留意点

良質のオーディオガイドを制作するには文字による解説よりもかなり複雑で、間違いは直しにくい。

話し言葉であるオーディオガイドは特に翻訳に向かない。また、さまざまな日本語と違うミスが起こる可能性がある。

すべての外国人が有料オーディオガイドを購入しない。文化的な理由（「一般人向けのオーディオガイドはいらない！」）、あるいは予算的な理由（「入場料の上には払わない！」）でいずれ借りない来客がいる。

有料オーディオガイドをバイリンガルにしたとしても、無料の文字情報（パネル、題箋など）に英語がなければ、日本人と外国人との差別になる。

結論

良質の英語オーディオガイドを制作するには、業者任せにせず、信用できる英語ネイティブの専門家に執筆、編集、収録、そして最終チェックを依頼すべき。

でも

その前に、無料で読んでいただける英文の文字情報を整えた方が簡易、そして効果的ではないか？